

# 看護闘争ニュース

NO. 135

2008年5月30日

今国会で看護職員確保法の改正を！

## 5.27決起集会・国会議員要請行動に400人 国会最終盤に向け決起を！



決起集会には、寺田稔議員（衆・自民党）、柚木道義議員（衆・厚生労働委員・民主党）、小池晃議員（参・厚生労働委員・共産党）、福島みずほ議員（参・厚生労働委員・社民党党首）、田中康夫議員（参・新党日本代表）が挨拶、阿部俊子（衆・自）、自見庄三郎（参・国民新党）からメッセージ、小坂憲次（衆・自）・岡本充功（衆・民主）・西岡武夫（参・民主）・岡田広（参・自）・主濱了（参・民主）各議員の秘書のかたに参加いただきました。



勝村久司さん  
（中医協委員）



日本看護協会  
（小川常任理事）



小池晃議員



田中康夫議員

激励の駆けつけたく  
ださった国会議員

激励のあいさつ



福島みずほ議員



寺田稔議員



柚木道義議員

5月27日「看護職員確保法の早期実現を求める決起集会」が、日本医労連・自治労連・全大協の主催で行われ全国から400名が参加しました。

集会には、今までの署名を積み上げ、看護協会や中医協委員からの激励の挨拶、顔ぶれ多彩な国会議員の激励で、力強い集会となりました。

職場の決意表明は、亀井恵美子さん（広島県医労連執行委員長・広島市民病院）が医労連を代表して行い、石澤朋子さん（青森民医労）が集会アピールを提案しました。

署名は60万筆を越え、賛同国会議員144名、自治体決議約半数という到達を運動でつくりあげました。

国会最終盤にギリギリまで「確保法改正」めざして奮闘する決意を固める決起集会となりました。

### 5・27決起集会アピール

#### 看護職員確保法の早期改正を実現しよう

#### 「看護師になってよかった！」と思える時代に

「自分のいのちを削るような勤務は苦しすぎます」「毎日残業、休暇もとれず、病気になっても休めません。きつくて倒れそうです。助けてください！」「現在のような看護は看護とは思えません。もっと思いやりのある、信頼・安心される看護をおこないたいです」……。

いま、看護師の悲鳴が全国であがっています。燃えつき、辞めていく看護師があとを絶たず、病棟縮小や病院閉鎖にまで及んでいます。

看護師不足は患者のいのちに直結する問題であり、「看護の危機だ」と、各地で警鐘が乱打されています。

「看護職員確保法」の一刻も早い改正が必要です。昨年の通常国会での参議院での請願採択を受けて、私たちの運動はいっそうひろがっています。新たな法改正署名は60万筆を越え、紹介議員は112名となっています。国への意見書・請願の採択は、約半分の自治体に及んでいます。「医療現場の危機打開と再建めざす国会議員連盟」も党派を超えて結成されました。

看護とは「生きる」ことへの援助です。私たち看護師は「いのち」により添い、病を克服するために、つねに患者とともに「在りたい」と願っています。

「患者の苦しみは病気そのものより、看護が受けられない苦痛の方が大きい」ともいわれます。いのちの切なさ、大切さをだれよりも身近に感じ日々看護しています。

16年前に制定された確保法が現状に合わないことは、もはや誰の眼にも明らかです。「看護の危機」を打開し、看護本来の仕事を取りもどすために、「看護職員確保法」の改正を何としても実現させましょう。

そして、「安全でゆきとどいた看護をしたい」と願うすべての看護師に、笑顔と誇りをとりもどしましょう。「看護師になってよかった」と思える時代にしていきましょう。

看護職員確保法の早期改正を求める5・27決起集会